



えひめハッピーライフ



松山・三津浜がホームタウン

愛媛大学 教育学部 准教授 川瀬久美子先生

三津浜での毎日

「くーちゃん、いらつしやい。なんか凄い風邪ひいてたんでしょ？もう大丈夫？」
「じゃこてん屋のれんをくぐると、奥さんが心配そうにカウンターの向こうから出てきました。ちょうど仕事にきりがつきかけていたらしい主人も、
「おつ、くーちゃん」と手を拭いながら出てきました。

ー」は三津浜商店街。かつては城下町・松山の人や物の輸送拠点として商売で栄えた港町です。

「ありがと。やとと喉の調子が元通りになったと」。でも、風邪のせいではないのだの新年会に行けなくて、悔しかった!!あの店、まだ行ったことないから行きたかったのに」

「また企画しようよ。あそ、15時から開けるらしいから早い時間なら子ども達も一緒にいけるよ」

三津浜の「近所に知り合いはたくさんできましたが、特に親しい30〜40代の友人達は商店街にそれぞれカフェやうつわ屋などのお店を構え、私と同じように子育て真っ最中です。我が家は普段は小学生の娘と二人暮らし。普段から親子で商店街のお店に顔をだしたり我が家でクリスマス会を開くので、みなさんとは家族ぐるみのおつきあいです。じゃこてん屋で他愛な

安心できる子育て

「お喋りしていると、店の前を友人一家が通りかかりました。お母さんがまだヨチヨチ歩きの我が子に「おばあちゃん、やってみて」と声をかけると、腰に手を当てた前かがみで歩いてみせて、可愛い物真似にみんな大笑いです。どこかのお店で店主とお喋りしていると、近所の友人が通りかかったり初対面のお客さんと話が弾んだりして、ついつい長居してしまうのです。

松山市内の別の場所に住んでいたときは、基本的に職場と自宅を往復する日々でした。娘が生まれてからは外遊びのために公園や海辺に行くもの常の親子二人きりで、連日イヤイヤ期の子どもの相手をひとりでするのは覚悟していた以上に変化でした。職場と家族ともに仕事と育児の両立に理解があり人間関係には恵まれていました。慢性的な寝不足と仕事も家事も(おそろく育児も)すべてが中途半端にならざるを得ないストレス。当時は心身ともに行き詰まっていました。

三津浜に引越したのは、子ども向けイベントなどで三津浜を何度か訪れて、古い街の風情と人の温かさを実感してからです。実のところ、人の温かさに地域によ

る違いはほとんどないと私は考えています。現代社会が世知辛くなったといわれるものの、大抵の人は善良だし、よくよく話しをしてみれば個性豊かで面白いのです。ただ、人の温かさを感じるチャンスがない。仕事と家庭生活でみな時間的余裕がないのと、近所の人と知り合う場や機会がないのかと思います。



歩いて数分のところに、顔なじみのお店や友人の住まいがある心地よさ(飲食店・雑貨店・各種工房など、数は多くないけれど本当に良いお店があるのが三津浜の自慢です)。近所の大人達が自分の子どもを見守ってくれている安心感。岐阜の実家や夫の家に帰省して久しぶりに松山に戻って来たとき「おかえり。のんびりしてきてた?」と迎えてくれる近所の人々の顔を思い浮かべると、もう三津浜が自分のホームタウンなのだと思いが温かくなります。

三津浜の「安心できる」と

三津浜に引越した頃から、かつての賑わいを失ったといわれる三津浜のために何かできないかと、友人の立ち上げた地域づくり組織に入って活動しています。もちつ

きや仮装コンテスト、リアル脱出ゲーム：みんな街を盛り上げるためのアイデアは豊富だけれども本業があるし、イベントのときは常に人手不足です。幸い私はイベントが開催される週末や祝日は勤務しなくて良い(というか子どもが小さいので仕事が入られない)ので、スタッフとして奔走しています。そんな活動の中で、地域社会における様々な課題を実感したり、社会で求められる人材や大学の役割、常識に縛られない生き方など、自分の認識を新たにしたりすることもたびたびです。

「ねえ、応援旗つてあったほうがいい?なくてもいい?」娘の通う小学校のマラソン大会が近づいてきました。マラソン大会のコースは、3年前に小学校周りの道路から商店街に変更されました。それ以来、私と友人達は新聞の折り込み広告を細い筒状に丸めてポールにして、紙を貼り付けた小旗をつくり、沿道で応援する保護者や住民に配っています。娘からは「必死で走ってるもん、旗なんか見てる余裕ないよ」というつれない返事。それでも、じゃこてん屋さんからは「何もなしで、がんばれー」ってうだけより、旗振つて応援したほうが気分が上がる、つてみんな喜んでよ」と聞いたので今年もコツコツ作るうかと思えます。「忙しいから」を理由に色々なことを諦めたり後回しにしていたりしたら、あつという間に人生は終わってしまいます。仕事に邁進するのも一つの人生でしょうが、世の中には仕事で得られるものとは違つ、キラキラした素敵なものがいっぱいあります。私と娘に、たくさんの「素敵」をあたえてくれる三津浜に乾杯!